

共-52 安全性評価における統計解析—特に超加変動の処理

統計数理研究所 柳 本 武 美

毒性試験データの解析に伴う 1 つの困難は超加変動の処理にある。超加変動は繰り返えし変動、同腹効果 (litter effect) によって生じるものであり、後者の場合避けられないものである。

研究代表者は empirical Bayes アプローチが有効であり、また尤度関数を細かく調べる必要があると考えている。共同研究者は別のアイデアをもっている。相互のアイデアを交換する場を設定する。

共-44 ハワイ調査の経年比較分析

統計数理研究所 鈴 木 達 三

3 回にわたるハワイ日系人調査および 1978 年ホノルル市民調査および 1983 年ホノルル市民調査の共通項目について経年変化の検討を進める。特にハワイ日系人については世代の交代に伴う意識構造の変化について分析を進める。また一般ホノルル市民については、1970 年代より進んだ社会移動（アメリカ本土からの流入人口の増大）に伴う意識の変化に焦点をあてた分析をすすめ、基礎的社会構造の変化と意見の変化についての相互関連のあり方を検討する。

共-45 日本およびアメリカにおける国民性研究のあり方について

統計数理研究所 鈴 木 達 三

1950 年代から研究を進めてきた「国民性の研究」について日米双方とも継続調査データの蓄積と新しいデータ解析の方法論開発により、従前の印象的記述の段階から実証的科学研究へと進んできた。この研究ではこの 30 年の研究結果をふまえて社会環境の変化と意識変化との相互関連のあり方をとらえる方法論を研究し、今後の国民性研究における方法論の改善と国際相互理解を進める方策を考える。

共-60 統計行政のあり方

統計数理研究所 林 知 己 夫

統計行政と統計学、統計学関係の学令の関係はどうあるべきかについての根本的問題について研究するのが目的である。

共-61 継続調査データの二次的再分析

統計数理研究所 鈴 木 達 三

同一の調査システムに基づく継続調査データ（全国調査）は調査法の観点からみても、また、意識（実態）の経年変化の分析にとっても極めて貴重なものであるが、これまで集積され同一仕様で分析されることはほとんどなかった。これは継続調査されている大量のデータを統一された仕様で同時に分析できるシステムの構築と、継続調査データの集積、維持管理システムの構築により二次的再分析が可能となるのでこれに向けてデータの集積とシステムの構築法を追求する。